

# ジャズとアメリカ

国際教養学部 英語コミュニケーション学科 増崎 恒

「ジャズとアメリカ vol. 11」が今年度も開催されました。本学客員教授でジャズサクソ・ブレイヤーの古谷充氏を講師に迎えて、平成 21 年 7 月 8 日(水)に講演会が、そして 7 月 16 日(木)には、学生会館大ホールにてジャズの演奏会(ジャズライブ)が開催されました。

講演会には、学生、教職員のみならず、多数の市民の方にも足を運んでいただきました。教室に大入りとなった聴衆を前に、ジャズの過去・現在・未来について、ジャズ畑でない人たちにも分かりやすく、「Funk」(土くささ)という語をキーワードに、ジャズとラップミュージックの意外な関係性を示しつつ、「Funk! ジャズとの関わり」という題目で、当時の映像や音源を交えつつ古谷先生独特の軽快かつ絶妙、文字通り Funk! な調子で語っていただきました。

ジャズライブでは、サクソ×2・ベース・ピアノ・ドラムの 5 人編成からなるジャズバンド「ザ・サンダーバズ」の主演(古谷先生はアルトサクソを担当)として、素晴らしい演奏をご披露下さいました。学生、教職員、加えて多数の市民の方を含めた聴衆がジャズの妙技に魅了されました。

以下、増崎が本年度春学期に担当している講義科目「米文学概論 1」(2 年次生以上対象)の授業の一環として学生に「ジャズとアメリカ」に聴衆として参加させ、課題として書かせた感想(の一部)を挙げて、今年度の「ジャズとアメリカ」の報告に代えます。

## ■ 1. 「ジャズとアメリカ」の講演を聞いて

### <感想 1>

私もジャズは家でたまに聞くので、今回の講演は楽しみでした。以前、先生のライブにも行ったことがあって、次のライブも楽しみにしています。先生の話聞いて、ジャズが本当に長い歴史を持ち、そして、実に様々な種類のジャズがあるのだなと思いました。後半でビデオで見た Jazz Funk よりも私は Funky Jazz の方が好きです。楽器をおもちゃの様に扱い、ビデオで見ている、その弾いている様も、音楽もかっこよくて聞き入ってしまいました。はき出して、作って、という歴史が新しいジャズを生み出しているというのが印象に残っています。

### <感想 2>

Funky という言葉はよく聞く言葉であったが、Funk という音楽はどのようなものなのか、はっきりとした理解は無かった。この講演会を聞いて Funk というものが何なのか、かなり明確になっ

た。

その中で、とても興味深かった内容は、Funk の要となる反復性のあるリズム、ミュージックは人間の興奮をよぶという事だ。感覚では分かっていたかもしれないが、改めて、そうだと聞かれると何かはっとさせられた。

その他にも、言語のリズムによって音楽に合う、合わないが決まってくる事を知った。日本語では Funk に合わないというのがとても残念に思えたが、逆に Funk というのは、アメリカが生んだ素晴らしい文化であると思った。

### <感想 3>

古谷先生の講演は、初めて聞く話で興味深かったです。Funk という言葉ではなく Funky は知っていましたが、その言葉の意味や語源の「土くさい」などということは知りませんでした。そして、今の音楽の中によく取り入れられているラップが Funk から生まれたということにも驚きました。口での説明だけでなく、映像と一緒に見せてもらうことで、目でも耳でも理解することができました。また、初めて聞く曲だったので、今自分が聞いている曲以外の様々な曲も聞いてみたいと思いました。

### <感想 4>

今まで Jazz という音楽をテレビなどでちらっと聴いたことはあったけど、こんなにちゃんと聴いたのは初めてだった。なので、ビデオを見たり、古谷先生の話聞いて、Jazz って一定のリズムパターンがあって、それに合わせていろいろ変化して行ったりするというのが分かった。また、歌詞はメロディーにのせるのではなく、言葉としてのリズムにのせていくというのも他の音楽とは違って面白いなと思った。そして、これが現在のラップにつながっていると知ってまさか Jazz から来ているとは思っていなかったのも、とても驚いた。また、「音楽は常に流動している」ということを言っていたが、時代と共にどんどん変化して行っているのも、確かにそうだと共感できた。

### <感想 5>

初め“Jazz”を聞くと思っていたので、少し構えていたのですが、前半は“Funk”を聞きました。古谷先生もおっしゃっていたように、“Funk”とは「土くさい、野暮ったいもの」である、まさにその通りだと思いました。なぜなら、今日見たビデオすべてが、全く気取った感じではなかったからです。

後半は、“Funky な Jazz”と“Jazz Funk”を聞いたのですが、足が自然とリズムを刻んでいました。私はピアノを弾くことが趣味なんですけど、クラシックにしか興味がありませんでした。

しかし、今日“Jazz”を聞いて、“Jazz”もいいな弾いてみようかなと思うことができました。

### <感想6>

僕は普段、音楽は邦楽しか聞かないため、アメリカの文化であるジャズについては、全然興味はなかった。しかし、今日講義を受けてみてジャズはいいなと思った。特に印象に残ったのは、キャノンボールアベディというグループだ。今まで楽器なんてある程度上手だったら、どれも同じだろうと思っていたけど今日聞いてみて上手いっていうのはこういう人を言うんだなと、とても感動した。もっと興味を持ってくれる人を増やすために、1回でも多く講義を続けて欲しいなと思った。

## ■ 2. 「ジャズとアメリカ」のライブを聞いて

### <感想1>

今回のジャズライブも、バンドの皆さんに圧倒されました。特に刺激的であったのがピアノのソロで、楽譜にはないようなアドリブ感が楽しめました。ジャズでのピアノの位置はあいまいさ、流れを作る役割を担っていると思います。サクソスの古谷さん親子が、仁王立ちして2人並んで演奏する姿は素晴らしいと思う。全体の音楽として、テンポが適度に速く、聞いている人が皆ノリノリでした。

音の高低さが様々で楽しめたライブでした。

### <感想2>

普段ジャズやクラシック等のジャンルは聞くことがないので、ジャズライブは新鮮な気持ちで聴くことができました。ジャズは他のジャンルと違うリズムが特徴的だと感じました。今回のジャズライブはロックに近かったような印象を受けました。ジャズは比較的穏やかなイメージがあるので、アップビートな曲もあるんだと知りました。サクソスを中心に全体的にきれいな調和で聴いていて楽しかったです。これまで知らなかったジャズを今回聴いたことをきっかけに、他のジャンルの曲をもっと聴いてみようと思います。

### <感想3>

今回のジャズライブでは何曲か印象に残った曲がありました。まず一曲目に演奏されていた曲は若者向けということで、アップテンポで元気をもらえる一曲でした。もう一つはライブの後半で演奏されていた少し落ち着いた雰囲気のある楽曲です。あれは、古谷先生自身が作曲されたそうなので、聴いていてとてもリラックスできる曲だと思いました。

昨年、「英米の文化・文学」の授業でもジャズライブを鑑賞しましたが、やはり今回もドラムの方の演奏に目が行きました。音によってスティックを分けていて、ジャズはやっぱり独特の世界観があって素敵だと思いました。

#### <感想4>

初めて生でジャズを聴いて、ジャズってこういう感じなんだと感心した。それぞれの曲で、ドラム、ベース、ピアノ、サックスの人がメインとなるパートがあったのは驚いた。それに、このメインパートはほとんどがアドリブだと知り、さらに驚きは増した。ドラムやベースなどのそれぞれの演奏者がとても個性あふれる演奏になっていたと思う。これはアドリブだからこそなのかと感じた。また、古谷先生が作ったという曲も演奏されていたが、バラードっぽい曲で、何か懐かしい感じの曲だなと思った。この曲はライブの中で私に一番印象を与えた曲だった。

#### <感想5>

先週はビデオでJazzの演奏を見て、今日のJazz Liveはとても楽しみにしていました。2曲目の「プッチーニ」は、1曲目と違ってとても複雑なメロディーだったと古谷先生は言っていて、私も聴きながら本当だ、と思いました。複雑なメロディーは合わせにくそうなのに普通に合わせていてすごいと思いました。古谷先生が作った“ancient city”はとても静かで穏やかでゆったりとしていたので聴いていてとても心地よかったです。演奏に関しては、ピアノやサックスのソロが迫力があってすごい！！と思いました。集中して聴いていたら、ちゃんとベースが中心なのも分かったし、メロディーが繰り返されていたのも分かりました。

Jazzの生演奏を聴く機会はめったにないので、とても良い経験ができたし、楽しめたので、ライブに参加してよかったと思います。

#### <感想6>

「ジャズとアメリカ」のライブに参加して、一番印象にのこっているのは各楽器のソロで演奏するところです。1人で演奏するのに、みなさんすごく音が大きくて指の動きが速くて迫力があって圧倒されました。ジャズライブを初めて見た私は、ジャズはすごく情熱的な音楽だということを実感しました。やっぱり本場であるアメリカの人々が情熱的な人が多いから、ジャズを情熱的な音楽だと感じたんだと思います。

#### <感想7>

サンダーバーズのライブを見るのは2回目だけど、やっぱりかっこいいなと思ってしまった。最初は迫力のある曲で始まり、2曲目のプッチーニという、犬の歩き方を曲にしたという曲は、

リズムがとても複雑で聞いていて色んな歩き方を想像できて楽しかった。古谷先生の作曲した「ancient city」という曲はタイトル通り、今のようにビルなどの建物がなく、自然の多い古代の町を象徴した曲で、とても美しく、聴き入ってしまった。

最後の曲はみんなの手拍子も加わり、とても楽しかった。一体感を感じられて、言葉で何と言いつた表せばいいかわからないけど、とにかく今回も素晴らしいライブだった。

#### <感想 8>

ジャズのライブを聴いて、ジャズの中にも本当にさまざまな種類があるのだと思った。裏打ちのテンポのよい音楽だけではなく、ピアノの音色がきれいなバラードのようなジャズも聴くことができた。

サクスを吹いている2人の肺活量にも驚かされた。それぞれのソロの部分は、とても迫力があった。今回は冬ではなく夏のライブということだったが、聴いていてとても心地良かったので、年に1回と言わず、また冬にも学校へ来てライブをやって欲しい。